

学校だより

東部中だより



平成30年度
第10号
H31/2/25

学校教育目標 自ら進んで学習する 心豊かな たくましい生徒の育成

授業参観

～参観していただき、ありがとうございました～

2月8日(金)の午後、1, 2年生の授業参観がありました。大変寒い中でしたが、たくさんの保護者のみなさんにおいでいただき、ありがとうございました。

1年生の各授業では、生徒たちが意欲的に学習課題に取り組み、一人一人が自分の本時の達成目標を理解した上で課題解決に取り組んでいました。

2年生の「立志のつどい」での一色翔太先生の講演は、「夢と目標」という演題でした。「夢を達成するためには、目標をもつことが大切。そこに向かっていく間には何度か挫折することもあるだろうが、それでも努力を続けることが大切。目標は変わることがあってもかまわない。大切なことは、あきらめないで続けること。」という内容の話がありました。生徒たちには、元プロスポーツ選手からの熱いメッセージが心に深く響いていたようです。

3年生については、卒業式後に最後のPTAの集まり(解散式)を行う予定です。



第2回地域教育推進委員会を開催しました

～2月8日(金)～

2月8日(金)に、地域教育推進委員会・豊かな心育成委員会が開かれました。地域教育推進委員、豊かな心育成委員の皆さまに御参加いただき、「信頼される学校づくり」について協議や情報交換を行いました。参加された委員さんからは、「自主的にあいさつ運動に参加している姿が素晴らしい」というお褒めの言葉や、「自分の意思で行動できる生徒を育ててほしい」等の御意見をいただきました。また、「教師の就業体制」や「特別な配慮が必要な生徒への対応」等についての質問もいただきました。



たくさんの貴重な御意見、ありがとうございました。今後の東部中の教育活動の参考にしていきたいと思います。

平成30年度「いじめ防止標語」コンクール

～塚原さん(3年)が最優秀賞～

3年生の塚原里咲さんが、市の「いじめ防止標語」コンクール中学生の部で最優秀賞に輝きました。校長室前のスペースに拡大コピーが飾ってありますので、中学校においでになった際には、ぜひ御覧ください。



最優秀賞

「考えよう 言葉にできない 心の痛み」

平成30年度下妻市男女共同参画推進事業

～「親子川柳・標語」で大塚さん(3年)が最優秀賞～

「男女共同参画」とは、男女が良きパートナーとしてお互いが尊重し合い、性別にかかわらず、様々な生活の場面で一人一人の個性や能力を十分に発揮できるようにしましょうということです。市で募集したところ366作品が集まりましたが、その中で3年生の大塚誠也さんが中学生の部で最優秀賞に輝きました。大塚さんは昨年度のいじめ防止標語コンクールに続いての受賞となりました。おめでとうございます。

最優秀賞

「お互いの 主張に耳かす 思いやり」

学校保健委員会が開かれました ～2月20日(水)～

2月20日(水)に、学校保健委員会が開かれました。学校医の先生方、PTAの各委員長さん、各学年委員長さんにおいでいただき、東部中学校の保健・安全面の現状について意見交換を行いました。

養護教諭からは、保健室の利用状況や定期検診の事後措置等について、体育主任からは、県の平均と比べた本校生徒の体力テストの結果や課題について、学校長からは食生活に関する生徒の実態について、保健主事からは生徒対象に行ったアンケートについての説明がありました。

参加したみなさんからは、「運動の経験が少ないことが、ケガの背景にあるのでは？」や「中学生は部活動もあって忙しいが、治療勧告を出しても医者に行くには、家庭の協力が必要」、「手紙を出さないで、配付したことをマチコミ等で周知すれば保護者に伝わりやすくなるのでは」といった意見が出されました。

話し合い後には「中学生に役立つ簡単レシピ」と題して、「麦入りわかめスープ」の調理と試食を行いました。意外と簡単にヘルシーでおいしいスープができたので、みなさん驚いていました。お忙しい中、ありがとうございました。



市費の教材備品購入費でクラシックギターを購入

～2人で一台の使用で、楽しい音楽～

下妻市から東部中学校へ配当額された予算の総額は11,640千円あり、主な項目として、生徒用図書(376千円)、消耗品費(2,349千円)、光熱水費(4,500千円)、備品・一般(350千円)、教材(960千円)となります。今回教材備品費で購入したものは、クラシックギター(9台)、跳び箱(2台)、抗菌合成スポンジマット(2枚)、エバーマツ(1枚)、ロイター板(2枚)等です。市費で不十分なところを地域のみなさんからいただいている「教育振興会」や「資源回収の公益金」で充当しています。学校の教育環境をよりよいものにするために、様々な方面から「お金」や「労力」の援助があることを再認識し、さらに質の高い教育活動を目指してこれらの備品を大切に使用させていただきます。

